

研究テーマ

対話的な学びの実践

—指導と評価の一体化を目指す授業づくり—

目次

- 1 研究の主旨
- 2 研究の対象
- 3 研究の内容及び方法
- 4 具体的な指導とポイント
- 5 研究の成果
- 6 今後の課題
- 7 その他

江戸川区立北小岩小学校

校長 藤島寿晴

# 1 研究の主旨

## 【主題設定の理由】

### ①学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実が求められる。

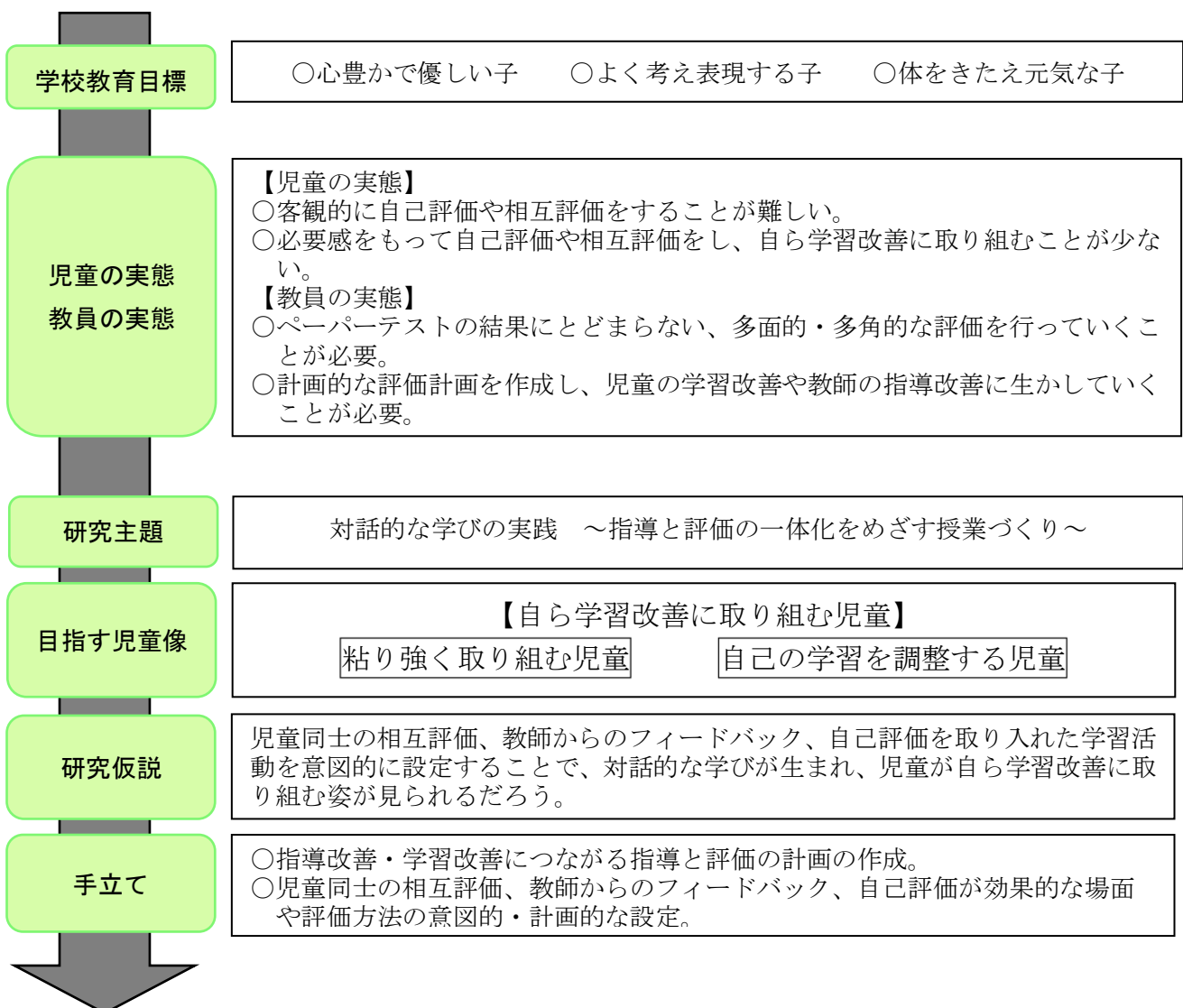
### ②主体的・対話的で深い学びの実現

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、児童が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが求められている。

### ③学習評価への理解

これからの学習評価は、「児童の学習改善につながるもの」「教師の指導改善につながるもの」「必要性、妥当性が見られないものは見直していくこと」が求められ、計画的に評価計画を実施していく必要がある。

## 【研究構想図】



【目指す児童像】

目指す児童像	自ら学習改善に取り組む児童の姿	
	粘り強く取り組む児童の姿	自己の学習を調整する児童の姿
	①はじめは上手く作ったり表現できなかつたりしていても友達の作品や資料を参考にしよりよいものになるように改善している。 ②自分とは異なる友達の意見をよく聞いて、より良い考えや解決策、合意案を作り出したり、発見したりしようとしている。	①自己の学習目標を設定している。 ②自己の学習の様子をメタ認知（自己評価）している。
一年	①諦めずに最後まで取り組んでいる。友達の良いところを見付けようとしている。 ②友達の話を聞くことができる。	①できるようになりたいことを表現している。 ②頑張ったことを書くことができる。
二年	①友達の良いところを見付け、称賛している。 ②自分の考えと違った意見を認めることができる。	①できるようになりたいことを表現している。 ②頑張ったこと、できるようになったこと、できなかったことを書くことができる。
三年	①友達の良いところを見付け、自己の学習に取り入れている。 ②自分の考えと友達の考えの違うところや同じところを考えながら聞き、良いところを取り入れることができる。	①既習事項を想起し、目標を設定している。 ②できるようになったことや、できなかったことを振り返り、次時の課題を決めることができる。
四年	①友達の良いところを見付け、自己の学習に取り入れている。 ②自分と友達の考えを比べながら聞き、よい考えや解決策を見付けて取り入れることができる。	①既習事項を想起し、目標を設定している。 ②できるようになったことや、できなかったことの原因も含めて振り返り、次時の課題を決めることができる。
五年	①友達の良いところや教科書、図書資料から必要な情報を探し、取り入れている。 ②自己の課題を解決するために、自分とは違った友達の考えを聞いて、より良い考えや解決策を見付け、自分の考えに取り入れることができる。	①自己の学習状況を振り返り、目標を設定している。 ②自己の課題についてできるようになったこと、できなかったことについて理由も含めて振り返り、次の課題を決めることができる。
六年	①自己の作品がよりよいものになるように、友達の作品や図書資料から必要な情報を探して取り入れている。 ②自己の課題を解決するために、自分とは違った友達の考えを聞いてより良い考えや解決策を見付けたり、考えを合わせて新たに発想したりして自分の考えに取り入れることができる。	①自己の学習状況を振り返り、目標を設定している。 ②自己の課題についてできるようになったこと、できなかったことについて理由も含めて振り返り、自分の考えや制作物をより良くしたり、次の課題を決めたりすることができる。
特支	①学習活動に参加し、達成感を味わうことができる。 ②生きる力につながる事柄を身に付けることができる。	①自分の学習内容について理解する。 ②自己のめあてを理解し、活動について振り返ることができる。

2 研究の対象

江戸川区立北小岩小学校児童（1～6年生） 322名

3 研究の内容及び方法

昨年度までの校内研究では、主体的・対話的で深い学びの児童の姿を考え、授業改善をしながら研究を進め

てきた。その中で、子供たちがめあてをもって学習に取り組んだり、友達と一緒に考えたり、学習したことを振り返ったりするなど、児童が自己評価や相互評価に取り組む姿が多く見られた。また、教師も児童の学習状況から次時の指導を工夫したり、必要なフィードバックをしたりしてきた。

今年度は、これまでに教師も児童も取り組んできたことを、「対話的な学び」「児童自らが学習改善に取り組む」ということをキーワードに、児童が自己の学習状況について把握して学習改善に取り組んだり、相互評価や自己評価の対話的な学びの良さに気付いて取り組んだりできるよう研究を進めていく。

この研究で目指す児童の姿は、児童自ら学習改善に取り組む姿として、【学習に粘り強く取り組む姿】と【自己の学習を調整する姿】である。対話的な学びの実践を通して、友達の作品や資料、自分と異なる意見を参考にし、より良いものにしていこうとする姿を【粘り強く取り組む児童の姿】、学習目標を設定したり自己評価をしたりする姿を【自己の学習を調整する児童の姿】とした。学習過程の工夫、児童同士の相互評価、教師評価、自己評価の項目ごとに手立てを考え、授業研究を進め検証していく。

#### 4 具体的な指導とポイント

##### ○主体的な学びの視点

###### 粘り強い取り組みを行おうとする側面

- ・ 関心や意欲をもって、目標に向け挑戦し続けている。
- ・ できない問題ができるようになるまで何度も取り組もうとしている。
- ・ 仲間の意見を参考に繰り返し考えようとしている。
- ・ 自分が納得いくまで、調べたり考えたりしている。

###### 自らの学習を調整しようとする側面

- ・ 次に似たような問題に取り組むときに向けて、大切なことを振り返ろうとしている。
- ・ 見通しを立てたり、修正したりして学ぼうとしている。
- ・ 自分なりに工夫や改善をして、よりよくなるように取り組もうとしている。
- ・ これまでに学習したことを踏まえて、次の学習に取り組もうとしている。

○個人内評価は、良い点や可能性、進歩の状況を見ることが大切。振り返りは、「楽しかった」等の感想文ではなく、振り返りの記述から、何を考え、何を悩み、どのように解決したのか、次はどうしたいのかという思いを開花させる。

○学ぶ＝気付く。教師が、いかに子どもに気付かせるかを意識して指導にあたることが大切である。

##### ○アセスメント（スポーツでいうコーチングに近い）の両輪

- ・ 児童の理解状況をみながら、教師が授業改善をしていくことで、児童が主体的になる。
- ・ 児童が主体的になり、児童自ら学習改善していく。

○学びと評価の一体化…（表）主体的・対話的で深い学び （裏）学習評価

○C児童をB評価に近付けるための取り組みが学びのアセスメント。Cが悪いという認識をなくす。Cを取り続ける状況を作っているのは誰か。工夫してBに近付けることが大切である。

○学びに向かう力、人間性等は、単元、学期、学年等を通して変容を見る必要がある。カリキュラムマネジメントの中で、複数人で長期的に見ていく。

○評価したことをどのようにフィードバックするのが、より大切。フィードバックをどのように提供すると、学びの質が変わっていくのか考えていく。アセスメントの際、エビデンスに基づかないと想像になっ

てまので注意が必要である。

#### ○対話的な学びについて

**思考**（意見を交わす）・**判断**（判断する）・**表現**（発表する）をセットで考えて授業をつくる。  
**相互評価**（より良くするためのアドバイスを他グループからもらい、取り入れるかどうか考える。）  
**自己評価**（自問自答、もう一人の自分と対話。振り返りの大切さを価値付ける）

#### ○相互評価の捉えについて

同じグループで話し合っているのは「学び合い」  
違うグループから意見をもらうのが「相互評価」

#### ○フィードバックについて

○児を意識した支援（足場架け）

#### ○ICT の活用

アナログの良さ、デジタルの良さを生かす。タブレットを活用して記録を取っていく。

### 5 研究の成果

○対話的な学びにおいて、どの学習場面でどんな学習評価を行っていくのかを考えて授業づくりを行うことができた。

○相互評価とは、他グループからアドバイスをもらい、自身やグループの考えをよりよくしていくことであると共通理解を図り、児童が「よりよくしたい」と思うためにはどのような活動が必要かイメージして指導することができるようになってきた。児童は、他者の意見を取り入れて自身の課題を解決する経験を積み重ねる中で、相互評価のよさに気付く児童も増えた。

○前時に把握した児童の学習状況をもとに、支援が必要な児童に重点的に指導することができた。その結果、児童は学習意欲を落とさずに課題解決に取り組むことができた。

○毎時間、児童がその時間の学習を振り返ることで、できたこと、できなかったこと、もっとよくしていきたいこと等をもとに、次時の課題を決めたり、課題解決の方法を考えたりすることができるようになってきた。

### 6 今後の課題

○学習評価＝評定ではないことを意識し、指導と評価の一体化をめざす授業づくりを継続していく。今年度の成果を生かすと共に、児童の実態に応じた指導改善を行う。

○学習評価したことを観点別評価に生かしたり、観点別評価の方法を明確にしたりする必要がある。

### 7 その他